

# 2019年度 学校評価結果公表シート

はつしば学園幼稚園

## 1. 本園の教育目標

学園の理念である「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」に基づき、“遊び・発見・学びの根っこを育てよう”に取り組めます。

教育方針

- ・日常生活の正しい習慣を身につける。
- ・身近な集団生活に適応できる規律と勇気を持たせます。
- ・まわりの自然や社会に関心を持たせる。
- ・思った事を素直に話し、人の話をよく聞きわけるようにする。
- ・自由な表現活動を重視し創造性を豊かにする。

幼稚園訓

は いとげんきにあいさつへんじ  
つ よいからだをつくります  
し っかりはなしをきける子に  
ば がんばるみんなははつしばっ子

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・正課授業の安定化を図ると共に、課外教室を幅広く周知し、多様な経験を通して『学びの根っこ』を育てていきます。
- ・「しつけの三ヶ条」  
“朝のあいさつが出来るように”  
“名前を呼ばれたら「ハイ」と返事のできるように”  
“履物を自分でできっちりそろえるように”
- ・立腰や茶道を通して日常生活の基本的な日常習慣の育成に役立てます。
- ・茶道は引続き裏千家淡交会より講師を招いての指導とさかい利晶の杜へ茶の湯体験を通して、子ども達自身が自分で心と体を整える力をつけさせます。
- ・はつしば学園小学校との連携として、小学校の先生による知育教室、交流会、課外教室 GrapeSEED 等、具体的な取り組みをすすめていきます。
- ・スクールカウンセリングを引き続き実施し、保護者に子育ての悩みを相談する場を提供し、幼稚園と家庭で園児をサポートする体制を構築します。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園行事は、楽しく充実している。	<ul style="list-style-type: none"><li>・わくわくデー・運動会・発表会と学期ごとに大きな行事は、子どもの成長が見られ、幼児期の発達段階を知る良い機会となっている。</li><li>・集団生活の中で年長児への憧れを持ちながら、協調性や自主性を培うことができている。</li></ul>
スイミングプール・体育指導・英会話・リトミック・茶道・朗読など保育カリキュラムに満足している。	<ul style="list-style-type: none"><li>・定期的な自由参観により、3年間の成長が良く見られる。</li><li>・小学校ではなかなか体験できないことが取り入れられており、様々な分野に興味を持つきっかけとなっている。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイミングは苦手であっても、小学校に進学後は経験によって不安なく入水できる。</li> </ul>
配布文書やホームページ・学級通信により園生活の様子がよくわかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページはトップページや「はつしぼっこだより」は定期的に見られている。保護者専用ページの閲覧回数増加が課題。</li> </ul>
スクールバスの運行は正確かつ安全に行われている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニナビ導入で到着前のメール配信により待ち時間の短縮ができるようになった。</li> <li>・バス以外にも欠席の申請がアプリで出来るようになり、保護者の手間と時間が省けるようになった。</li> </ul>
課外教室が充実している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学3年生から英語の授業が始まっているが、外国諸国の文化に触れたり生活科に繋がる内容で実施されており、保護者の期待とは異なる部分もある。課外教室で GrapeSEED が開設され、英語教育に関心の高まる中、幼児期からの英語の重要性を感じる保護者が増加している。</li> </ul>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画に対して、教職員全体で共通理解し、自己評価し、取組み状況を通じて各人の課題を具体的に確認することができた。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で積極的な意見交換をすることで、職員間の繋がりを深め、経験の浅い職員に保育技術や園の伝統を伝えていく。</li> <li>・学年別の会議を行う中で、週や学期の課題を計画し要点を確認し改善できるものは速やかに保育で実践する。</li> <li>・教職員の自己評価が高い傾向にあるので、冷静に自身を見つめ直して進んで学ぶ姿勢を持てるように導いていく。</li> <li>・研修に積極的に参加し、取り入れながら保育の発展と専門性の向上を目指す。</li> <li>・学年補助教員及びクラス補助教員の有効的なサポートを職員全体で連携をとり、実施する。</li> <li>・子育て相談員・幼児教育アドバイザーの育成など、幼児教育の専門性を高め、保護者の悩みやサポートに繋げていく。</li> </ul>

ホームページやアプリの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページはこまめな更新とそれを発信していく等、アピールの強化に努める。</li> <li>・園児管理システムを導入したが、カスタマイズや運用・職員の管理能力を向上させる必要がある。</li> </ul>
預かり保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育無償化に伴い、年々増加している預かり保育の利用者が更に多くなり、就労家庭の保護者にとっては開所日増加の要望も出ている。園児の安全管理を第一に考えた運営対策が急務である。</li> </ul>

## 6. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善や要望を求める事項は特になく、妥当であると認められる。保育内容も適切な教員配置により、教職員の個人的な経験値等による質の格差をなくすことに繋がっている。</li> <li>・正課授業の発達段階を考慮しながら、園児の学ぶ意欲の向上に繋がるカリキュラムの作成を今後も期待している。</li> <li>・職員全体が自己点検、自己評価を通じてそれぞれの具体的な課題を設け研修に励んでいる。子どもに多くの成功体験をさせて様々な事に挑戦する強い心を育てられるよう、伝統を継承しつつ、新しい保育にも向上心をもって取り組んでいる。</li> <li>・幼児教育無償化により、保育の質の向上への期待と幼児期の教育に対する保護者の関心が高まっているので、園の特色を活かし、更なる保育の質の向上を望む。</li> <li>・預かり保育は、円滑に利用できるよう工夫を重ねていき、安心で安全な子育て支援となるよう努める。</li> </ul>
--

以上